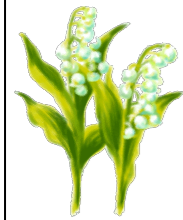


コイノニア



6月のテーマは「聖句につつまれて生きる」です。月間聖句は昨年度の年間聖句にもなっていたローマの信徒への手紙12:15の言葉、

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ですが、今月の礼拝ではこの他にも有名な聖書の言葉をみなさんと一緒に読んでいきたいと思っています。

「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。」(コロサイの信徒への手紙3:13)

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(テサロニケの信徒への手紙一 5:16-17)

「むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」

(コリントの信徒への手紙二 12:9)

聖書には、そのときそのときの気持ちを受け止めてくれる言葉がたくさん書かれています。悲しいときに読む聖句、悔しいときに読む聖句、自分のことがちょっと嫌になったときに読む聖句、また誰かを助けたいときに読む聖句、そしてみんなと一緒に読みたい聖句など、どのようなときに読んでも、その瞬間の自分に答えてくれる言葉が書かれています。

特に、宗教教育強調週間では、このような聖書のメッセージを丁寧に時間をかけて話していただきます。みなさんが様々な聖句を知り、毎日の心が少しでも軽くなって、あったかい気持ちになって、豊かに過ごすことができるように願っています。

どうか、みなさんの心が元気になるステキな聖句と出会えますように・・・!

聖書・キリスト教の漢字～これなんて読むの?～ #03 「使徒と信徒」

使徒(しと)とは、イエス・キリストの弟子たちを表現する言葉です。「そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。」(マルコによる福音書3章14節)とあるように、イエスが多くの弟子たちの中から12人(十二使徒)を選びました。

信徒(しんと)とは、キリスト教の教会で洗礼を受けてクリスチャンになった人のことを信徒と呼びます。ちなみに、聖書の中に信徒という表現はありません。

使徒と信徒、少し似ていますが間違えないように覚えてくださいね!

6月の予定 月間聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
(ローマの信徒への手紙12:15)

月間テーマ 「聖句につつまれて生きる」

9日(木)～ 宗教教育強調週間

14日(月) 本校が教会によって建てられたことを深く理解するために、地域の教会の牧師に来ていただいて聖書のメッセージを聴きます。

11日(金) 花の日礼拝

自然の中にあふれている神の恵みに感謝する礼拝。お花を献げて礼拝します。献金のご協力もお願いします。献げられたお花は、地域の福祉施設や病院にお届けする予定です。

松山学院ものがたり #03 アメリカンボード(Misson)×宣教師×キリスト教主義学校

アメリカンボード(American Board of Commissioners for Foreign Missions)は1810年に創立されたキリスト教の宣教団体です。1869年にD.C.グリーン宣教師が日本に派遣されたのち、多くの宣教師たちが日本にやってきました。同志社を設立した新島襄もアメリカンボードの準宣教師として日本に帰国し、アメリカンボードの支持を得て同志社英学校を設立しました。松山にやってきた宣教師たちは、松山に初めて組合派キリスト教を伝えたJ.L.アッキンソン、日本ミッションの松山ステーション開設のきっかけとなったシドニー・L.ギュリック、夜学校の理事および初代理事長に就任したH.B.ニューエル、夜学校で英語教師を務めたウィリアム・H.ノイズなどです。そして本校の創立者コーネリア・ジャジソンもボストン女性伝道会から派遣された宣教師です。本校も同志社と同じく、多くの宣教師たちに支えられながら教育活動を展開していきました。参考文献『松山教会ガイドブック教会便覧2021』

☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆ ソルト会と分かち合う「神の恵み」

先日、ソルト会(主に菜園活動を通して聖書のメッセージを“体験”する部活動)の生徒たちが、学校菜園～カルディア～で“カラフルラディッシュ”の収穫をしました。調理科の先生に食べやすくしてもらい、“神の恵み”を先生方と分かち合いました。



↑調理科の先生による美しい飾り切り。

